

平成 28 年 7 月 1 日  
地震調査研究推進本部  
地震調査委員会

## 奈古断層の長期評価

これまでに行われた調査研究成果に基づいて、奈古断層の諸特性を次のように評価した。

表 1 奈古断層の特性

| 項目                | 特性  | 信頼度<br>(注 1)             | 根拠<br>(注 2)                             |
|-------------------|---|--------------------------|---|
| 1. 断層の位置・形態       |   |                          |   |
| (1) 構成する断層        | 奈古（なご）断層  |                          |   |
| (2) 断層の位置・形状      | 断層の位置<br>(北端) 北緯 34° 33.8′<br>東経 131° 35.0′<br>(南端) 北緯 34° 29.7′<br>東経 131° 28.1′<br>地表の断層の長さ 約 13km<br>一般走向 N55° E | △<br><br>△<br><br>△<br>△ | 地形の特徴から推定。                              |
| (3) ずれの向きの種類      | 右横ずれ断層  | △                        | 地形の特徴から推定。                              |
| 2. 断層面の地下形状       |   |                          |   |
| (1) 断層面の傾斜        | ほぼ鉛直  | △                        | ずれの向き及び地形の特徴から推定。                       |
| (2) 断層面の幅         | 上端の深さ 約 0 km<br><br>下端の深さ 不明<br>断層面の幅 不明  | ◎<br><br>—<br>—          | D90 による地震発生層<br>の下限深さは 15-20 k<br>m 程度。 |
| (3) 断層面の長さ        | 不明  |                          |   |
| 3. 過去の断層活動        |   |                          |   |
| (1) 平均的なずれの速度     | 不明  | —                        |   |
| (2) 過去の活動時期       | 不明  | —                        |   |
| (3) 1 回のずれ量 (注 3) | 1 m 程度  | △                        | 文献 1 の経験式により                            |

|                  |        |   |               |
|------------------|--------|---|---------------|
|                  |        |   | 推定。           |
| (4) 平均活動間隔       | 不明     | — |               |
| (5) 過去の活動区間      | 全体で1区間 | ○ |               |
| 活動時の地震規模         |        |   |               |
| (1) 活動時の地震規模（注4） | M6.7程度 | ▲ | 長さから文献2により推定。 |
| 地震後経過率           |        |   |               |
| (1) 地震後経過率（注5）   | 不明     | — |               |

注1：信頼度は、特性欄に記載されたデータの相対的な信頼性を表すもので、記号の意味は次のとおり。

◎：高い、○：中程度、△：低い、▲：かなり低い

注2：文献については、本文末尾に示す以下の文献

文献1：松田時彦・山崎晴雄・中田 高・今泉俊文（1980）：1896年陸羽地震の地震断層．地震研究所彙報，55，795-855.

文献2：松田時彦（1975）：活断層から発生する地震の規模と周期について．地震第2輯，28，269-283.

注3：経験式によれば、1回の活動に伴う変位量D（m）は、断層の長さL（km）を用いて、 $D=0.1L$ と表される。

注4：経験式によれば、活動時の地震規模M（マグニチュード）は、断層の長さL（km）を用いて、 $M=(\log L+2.9)/0.6$ と表される。

ただし、長さ20km未満の活断層には適応できない可能性があるため、ここでは信頼度を▲とした。

注5：最新活動（地震活動）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

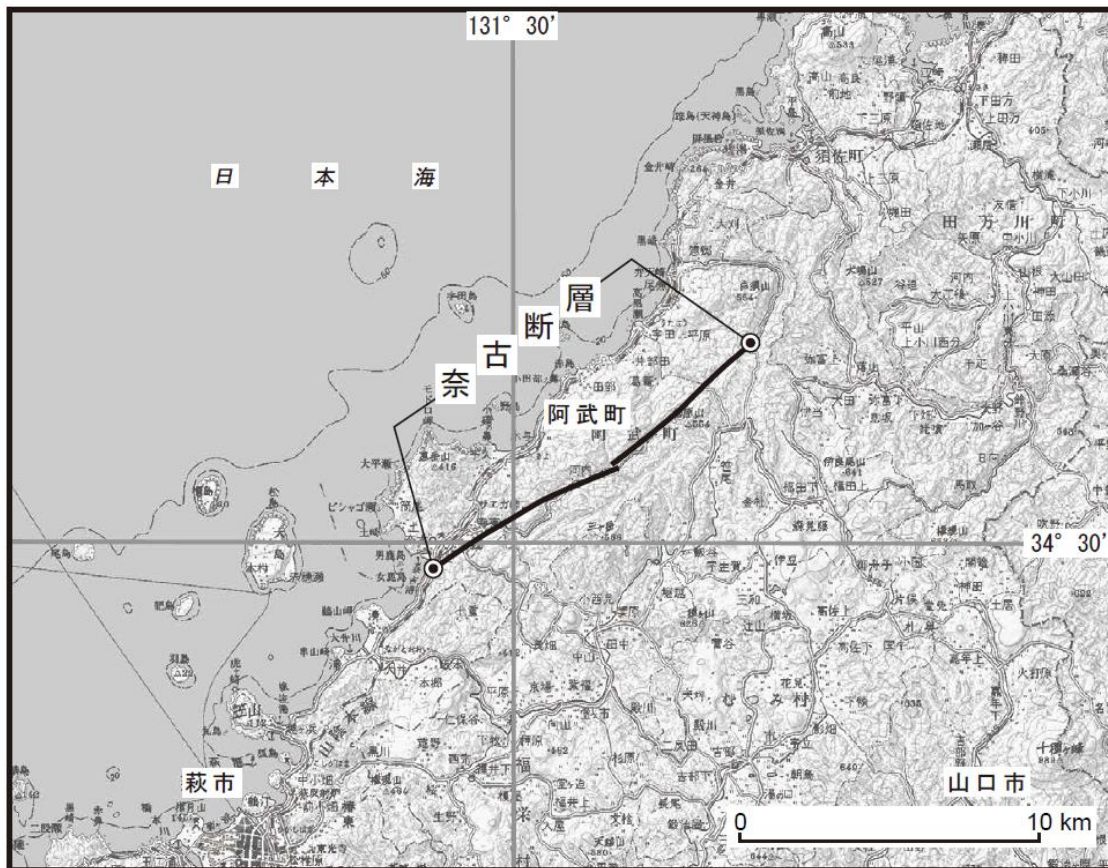


図1 奈古断層の位置

●：断層の端点

基図は国土地理院発行数値地図 200000「山口」